

2024年度 第3回6月期定例番組審議会議事録

1. 開催の日時 2024年6月12日(水)
2. 開催の場所 栃木放送本社会議室
参加できない委員には資料を送付して番組をお聞きいただき、意見・感想を返信してもらう形式で開催。
3. 委員の出席 委員総数8名
返信総数1名
出席総数7名

出席委員名	委員長	増田仲夫
	副委員長	河又弘子
	委員	竹内明子
	委員	石松英昭
	委員	若井明香
	委員	高橋久夫
	委員	小川俊彦
	委員	藤原紀沙

4. 議 題

(1) 「ナンバーX」

放送日 毎週土曜日 19:30~20:00

放送2回分 初回4/6と直近5/4 放送分を試聴

(2) その他

5. 議事内容

(1) 「ナンバーX」について

番組視聴：放送した番組を各委員に送付して試聴して頂きました。

議題説明

【企画意図】

新しい生活様式が求められる中、様々な環境において私達が最もしりたい情報とは、現場からの真実の声ではないでしょうか？しかもその情報を、いつも聴いているラジオから得られるとしたら…

既存のメディアの中で、最も音で想像力を掻き立てられる…それが「ラジオ」です。そのラジオを使い、誰もがこの話を聞いてみたいと思えるような「もの創り」や「音楽」に関するテーマを立て、番組パーソナリティーが聴取者を代表して知見を広めていく。

タイトルに「ナンバー」という象徴的な言葉があるようにこの番組のスペシャリティーは「数字」にこだわったテーマで毎週お送りする。

【パーソナリティー】

栃木放送午後ワイド番組アクセント水曜日担当、その他とちぎテレビなどで活躍し実績十分な藤田真奈。番組ナビゲーターは「もの創り」や「クラシックからポピュラー音楽」まで豊富な知識を持った海藤満氏。

ゲストに各経営者やそれぞれの分野のスペシャリストを招いて番組を制作。

各委員からは

○最初にいただいた番組の企画趣旨を聞いた時は、情報をラジオで得るような番組ではないんだなと思いました。ただ、内容がちょっと大げさに感じたので、もっと気軽に聴ける番組だと良いと思った。1回目はスポンサーの紹介が長すぎたし、2回目は初対面なのに内輪話が多かった印象です。でも、海藤さんが上手にナビゲートしていて、製品や企業のこともしっかりと紹介されていました。ただ、番組タイトル「ナンバーエックス」がしっくりこない感じがしました。もっと身近な企業の取り組みを紹介する内容にすれば良いと思いました。ファナック株式会社の会長さんが登場したのはすごいと思いました。栃木に立派な工場があるので、どんな企業か興味があり会長さんの気さくな一面が見えたのは良かったです。1ヶ月続くのは長すぎるのではないかなと思いました。これからどんな企業が出てくるのか興味がありますが、最初の勢いが持続するのか少し心配です。栃木県内の企業をもっと気軽に紹介してくれると、面白く聴けるのではないかと思います。

○「ナンバーX」というタイトルは子供向けの番組かと思いました。数字の説明も本人には価値があるかもしれませんが、リスナーにはあまり意味がないと感じました。社会貢献活動についての話も少し触れていましたが、もっと詳しく話しても良かったと思います。番組タイトルからは予想できませんでしたが、30分の番組は内容が濃くて良かったです。非日常的な情報もあり、例えば注射針の製造の話は興味深かったです。専門的な内容も

分かりやすく説明していて、栃木県にもこういう人たちがいるんだと感心しました。もっとこういう番組作りをしてほしいと思います。

○ラジオは想像力をかき立てるメディアなので、どの部分でリスナーの想像力を刺激したいのかを明確にすることが大事です。番組を聴くと、ものづくりやそれに関わる人々の覚悟、人生、交流の中での化学反応などがテーマになっていることが分かりましたが、それが分かるまでに少し時間がかかると感じました。3人の話し手がそれぞれの持ち味を發揮し、人と人の距離感を縮めるやり取りが良かったです。明るく軽い会話の中で、技術や仕事について熱く語る部分もあり、思いが伝わってきました。数字を切り口にするならば、その数字の意味をもっと明確にする必要があると思った。経営者の話も良いですが、IC レコーダーで録ったようなものでもいいので、現場の音、従業員の声もラジオならではの要素として取り入れると良いと思います。また、ファナックの会長が出演するぐらい良い番組なので、番組ブログや SNS での紹介を充実させると良いと思います。誰が出演したのか、どの部分が良かったのかをブログに書いたり、アナウンサーやディレクターが SNS で紹介したりすると、番組の認知度が上がり、ファンも増えるのではないかと思います。

○私は、今の日本の経済状況が低迷しており、脱工業化が進まない中で、将来の見通しが立ちにくいと感じています。その中で、世界的に進出している日本の企業を紹介するのは良いことだと思いました。IT 分野で遅れを取っている日本企業にとって、希望が持てる内容でした。しかし、番組自体が粗削りで、特に音楽の使い方や「ナンバーX」というタイトルの意味が不明瞭な点がありました。もっと丁寧に番組内容を作ることで、日本社会にも希望があることが伝わるとと思います。また、音楽の入り方や愛称で呼び合う必要性についても改善の余地があると感じました。

○番組の企画趣旨とタイトルには少しズレを感じましたが、栃木の企業を紹介する趣旨には納得しました。各パーソナリティと経営者のやり取りはスムーズで声も聞きやすかったものの、専門用語が多くて内容が難しく感じられました。注射針の話などは具体的に想像力をかき立てられましたが、ラジオを聴いて次回も聴くかどうかは難しいところです。2本目の番組は身内の話が多く、業界外の人には楽しめる内容か疑問です。音楽については選曲理由や曲名がわかると良いと思いました。クラシック音楽のリクエストを受け付けている点についても、その理由や紐付けなどの説明があると良いと感じました。

○音源1本目は番組の個人や企業などの前振りが長かった。数字に関連した番組・放送内容ということだが、コンセプトがよく分からなかった。製品づくりの苦労話であったり、どのようなところで使われているかなど身近な話しの方がよかったですのではないかと。そして2本目は内輪話しのように聞こえました。企業の取組内容に特化したほうが良か

ったのでは。なぜ、その商品づくりに取り組んでいるのか、企業理念や企業・商品の歴史、あまり知られていないここだけの話しなど。

○番組は数字を切り口にし、音楽と物づくりに特化している点が面白いと感じました。ただ、テーマが少し狭いと感じる部分もありました。土曜日の7時半から8時という時間帯はリスナーに限られるので、その点は仕方ないかもしれません。番組中にもものづくりの専門用語が多く出てきましたが、アナウンサーが一生懸命に経営者に説明を求めている姿勢は良かったです。ただそれでも、すべてを理解するのは難しかったです。また、1回目の放送ではスポンサーに配慮しすぎていた感じがあると思いました。

○番組は専門性が高く、出演者同士が仲良しという雰囲気を感じた、全く関係のない分野の人たちが興味を持つきっかけになるかは疑問です。ただ、業界関係者や経営者にとっては楽しめるエンターテインメントになっていると感じました。「ナンバーX」というテーマがもう少しわかりやすく提示されると良いと思います。内容をシンプルにし、音楽やものづくりなど一つのテーマに絞って展開しても良いのではないのでしょうか。また、製造業に関心のある学生などにとって企業研究のきっかけになるかもしれないので、入り口を優しくする工夫があると良いです。番組が定着するうちに短いコーナーなどを設けるとわかりやすくなるのかなと思います。集中力が短い現代のリスナーに合わせて、内容を切り替えたり飽きさせない工夫をすると、30分の番組も短く感じられるようになるのではないのでしょうか。

当社としては、これらの意見をもとに、今後の番組制作や広報に取り組んでいきたい旨を、各委員に伝えた。

(2) その他

6. 審議内容

上記の通りであり、特に審議決定し、答申すべきものはなかった。

7. 番組審議会の意見の概要の公表

- ① 当社の番組「栃木放送からのお知らせ」（2024年6月16日）
- ② 当社のホームページに掲載（2024年6月18日）
- ③ 当社事務局に議事録備え置き（2024年6月18日～）

以上